

令和7年3月14日（金）

「新たな教師の学びの姿」を目指す校内研修の実現



北海道立教育研究所

人材育成部研究主幹 西 島 進 一

研究の動機（現状と課題）

<国の動向>

子供たちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」）を実現

研究の動機（現状と課題）

<国の動向>（「新たな教師の学びの姿」）

- 変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという「**主体的な姿勢**」
- 求められる知識技能が変わっていくことを意識した「**継続的な学び**」
- 新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した「**個別最適な学び**」
- 他者との対話や振り返りの機会を確保した「**協働的な学び**」

研究の動機（現状と課題）

<北海道の状況>

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果より
～ 「学校質問紙（校内研修に関する質問事項）」 ～

【「そう思う」と回答した割合】

質問事項	小学校（％）		中学校（％）	
	全国	全道	全国	全道
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか。	62.3	70.1	45.2	60.1
児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか。	33.3	45.8	27.3	40.3
個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか。（オンラインでの参加を含む）	24.6	27.5	20.8	29.7

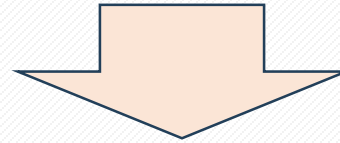
- 国においては、子供たちの学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）の転換が求められていることから、校内研修や授業研究をはじめとする学校における様々な機会や場面で「新たな教師の学びの姿」を実現するとともに、そのための体制整備が必要である。
- 道においては、より実践的な研修や教師一人一人のニーズに応じた定期的・継続的な研修が十分に行われていない可能性があることから、学校における校内研修の実情を把握するとともに、学校が抱えている課題を明確にする必要がある。

研究のねらい（目的）

- 本道における校内研修の実情を把握し、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた改善策を明らかにするとともに、課題解決に向けた方策を調査研究する。

2 調査研究の内容

- (1) 研修講座参加校へのアンケート実施・分析
- (2) 学校管理職研修における職場実践の課題解決に向けた取組
- (3) 各都府県センター視察（滋賀県総合教育センター）



【ゴール】

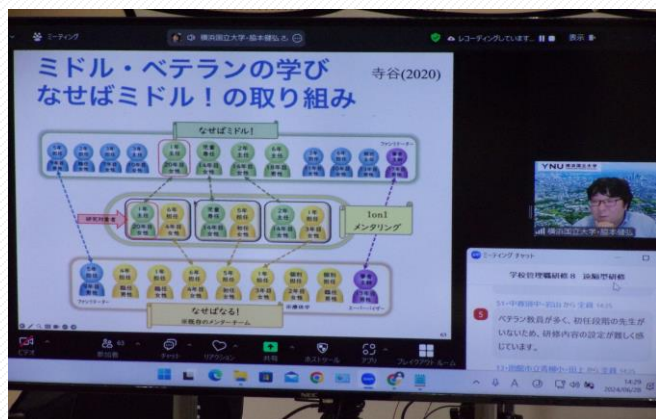
- 国が求めている「新たな教師の学びの姿」について、北海道の校内研修に係る課題と課題解決に向けた取組を把握する。
- 把握した課題及び課題解決に向けた取組を次年度の校内研修の研修講座に生かす。

(I) 学校管理職研修 8 参加校へのアンケート実施・分析

アンケート対象者

【参加校（参加者）】

- ・ 小学校30校
 - ・ 中学校20校
 - ・ 高等学校 5 校
 - ・ 特別支援学校 1 校
- 合計56校



【研修講座の様子】

研修講座
8

学校管理職研修 8

～「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた校内研修の在り方～

【講座のねらい】

オンデマンド型研修及び遠隔型研修における講義や受講者同士の交流・協議を通して、校内研修等の充実・活性化による学び合い高め合う教職員集団づくりについて理解を深める。

【対象】全ての校種の管理職、ベテラン及び中堅段階の教諭

【定員】32名程度



【研修日程・内容】

①0.5h 5/28～6/10
オンデマンド型
研修「講義」
○ 新たな教師の学び
(NITS 基礎的研修
シリーズNo.28)

5/28～6/19
職場実践
○ 校内研修で学び合う
教職員集団づくりに関
する自校の課題の明確
化

②3.5h 6/28
遠隔型研修「講義・協議」
○ 「新たな教師の学びの姿」を実現する校内研修
○ 校内研修の充実・活性化の実際
○ 学び合い高め合う教職員集団づくりに向け
た自校の方策

7月上旬～
12月下旬
職場実践
(フォローアップ)
○ 自校におけ
る校内研修等
の充実・改善

講師 ②横浜国立大学准教授 脇 本 健 弘 氏

・令和5年度「学校運営研修3～メンターチームによる若手教員の育成～」講師。
・共著に『教師の学びを科学する』。編著に『教師が学び合う学校づくり』他、共著、編著多数

(I) 研修講座参加校へのアンケート実施・分析

○調査項目

【調査項目 1】

「主体的な姿勢」、「継続的な学び」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の4つの視点のうち課題となるものは何ですか。（選択式）

【調査項目 2】

自校の校内研修は、学び合い高め合う教職員集団づくりにつながるものとなっていますか。（選択式）

【調査項目 3】

自校の校内研修で、学び合い高め合う教職員集団づくりに向けた課題は何ですか。（記述式）

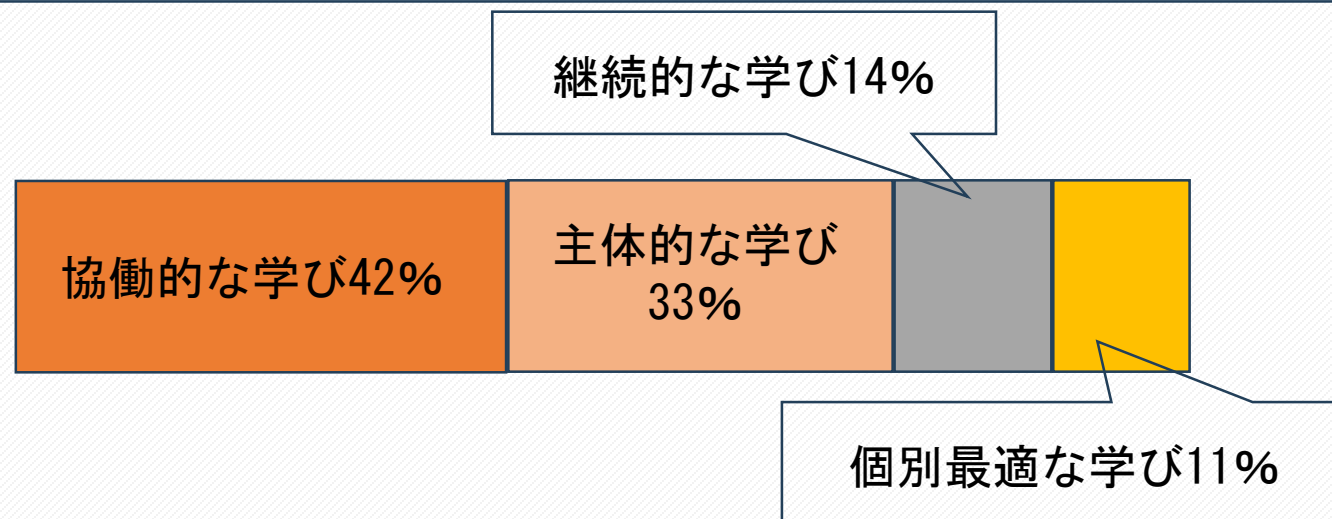
【項目Ⅰ】

「主体的な姿勢」、「継続的な学び」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の4つの視点のうち課題となるものはどれか。

【結果】

「協働的な学び」及び「主体的な学び」を合わせて75%と大きな割合を占める。

「主体的な姿勢」、「継続的な学び」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の4つの視点のうち課題となるものはどれか。



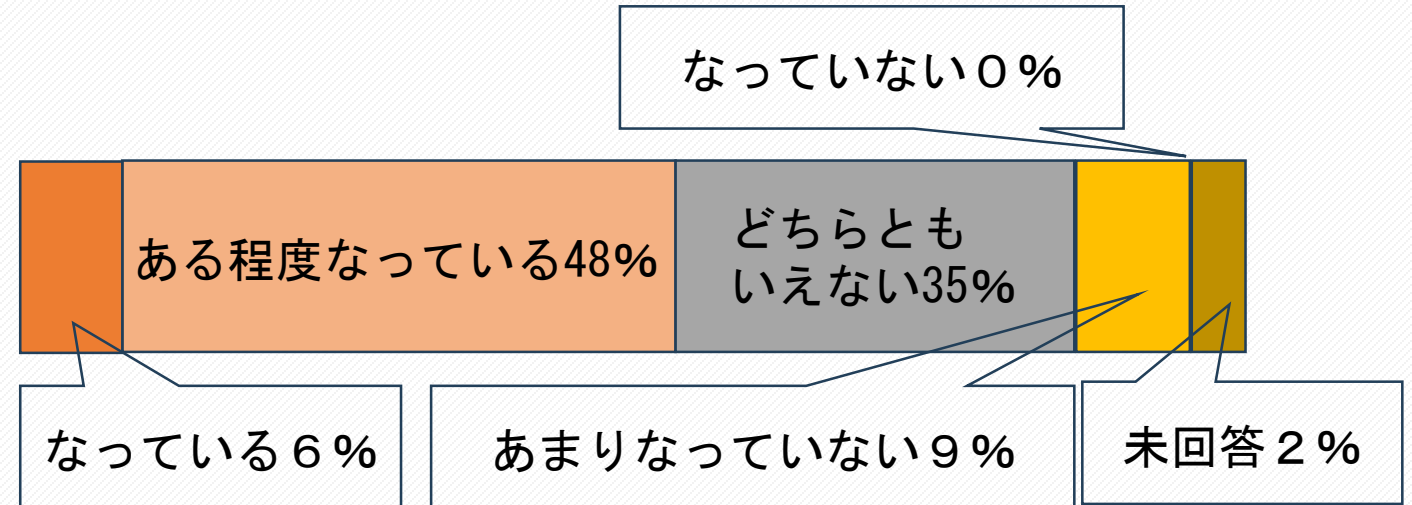
【項目 2】

自校の校内研修は、学び合い高め合う教職員集団づくりにつながるものとなっていますか。（選択式）

【結果】

54%（約半数）の学校が、「なっている」「ある程度なっている」との回答があった反面、「どちらともいえない」「あまりなっていない」「なっていない」の回答が半数近くあった。

自校の校内研修が学び合い高め合う教職員集団づくりにつながるものとなっているか。



【項目 3】 自校の校内研修で、学び合い高め合う教職員集団づくりに向けた課題は何ですか。（記述式）

- ・ 忙しくて互いに学び合うことができない。
- ・ 多忙化により、安心して学びに打ち込める時間がなかなか確保できない。
- ・ 校内外でもっと教員が学ぶ機会を充実させる必要がある。
- ・ 校内のスケジュールが過密して、教員の研修時間を十分に確保することができない。
- ・ 校内研修自体を多忙化のひとつと捉えている雰囲気がある。



環境整備に関わること

【項目3】 自校の校内研修で、学び合い高め合う教職員集団づくりに向けた課題は何ですか。（記述式）

- ・研修内容や授業について相談したり、アドバイスを受けた
りする場面がない。
- ・年度を跨いでの研修内容の継承が難しい。（人事異動など
により）
- ・中堅やベテラン層への研修の機会を見落としがちになるた
め意図的・計画的に設定する必要がある。
- ・研修を行うグループ（学年やブロック）の人数が多いなど
研修体制に課題がある。
- ・心理的安全性は確保されているが、研究授業の事後研など
では、授業者を尊重するあまり協議が深まらない。



組織的な取組に関わること

【項目3】 自校の校内研修で、学び合い高め合う教職員集団づくりに向けた課題は何ですか。（記述式）

- ・ 校内研修の実施状況等について検証する体制が整っていない（やりっぱなし）。
- ・ 研修がその場限りで、研修内容が実践に生かされていない。
- ・ 研修がワンパターンで研修内容の見直しが必要である。
- ・ 校内研修の効果を実感できないことで、教員の研修意欲が高まらない。
- ・ 校内研修のテーマが日常の教育活動や教員の意識になかなか浸透していかない。
- ・ 研究授業が目的（ゴール）の校内研修であり、公開授業後の研修が続かない。
- ・ 校内研修が形式的なものとなっており、教員の力量形成につながっていない。



研修の効果に関わること

【項目3】 自校の校内研修で、学び合い高め合う教職員集団づくりに向けた課題は何ですか。（記述式）

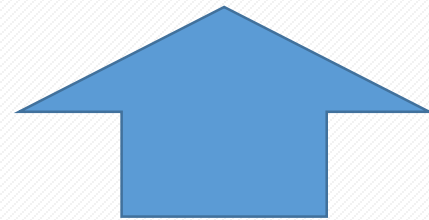
- ・ 管理職等による個々の職員へのフォローアップを行う環境を整備する必要がある。
- ・ 校外研修を受講したいが、担任外の先生が多忙なため、学級を空けることに躊躇している状況がある。
- ・ 個々の課題に対応した校外研修の受講を促す必要がある。
- ・ 個々が課題を感じている内容について、校内外で研修を経験できる機会を設ける必要がある。
- ・ 受講奨励をしても消極的な教員がいる。



教師一人一人のニーズに関わること

研修講座参加校へのアンケートの記述から明らかになった4つの課題

- ・ 環境整備に関わる課題
- ・ 組織的な取組に関わる課題
- ・ 研修の効果に関わる課題
- ・ 教師一人一人のニーズへの対応に関わる課題



これらの課題解決につながる取組を
学校管理職研修8の実践記録から整理



北海道立教育研究所 学校管理職研修8～「新たな教員の学びの場」の実現に向けた校内研修の在り方～
職場実践ワークシート

校内研修の実践記録

受講者番号：00 所属：◇◇学校 校長 氏名：○○ ○○

自校の現状と課題

- 校内研修が担当者や研究授業の授業者に任されている雰囲気があり、主体的な姿勢に課題がある。教員一人一人が校内研究を自分事と捉えられるようにする必要がある。
- 学年別のブロック体制で研究授業に取り組んでいるが、教員同士の協働的な学びの場とはなっていない。

実践内容

- 校内研修を自分事として捉え、互いに支え合いながら学びを進めることができるよう、教員一人一人の授業改善に対する課題意識に応じた、「支援の仕方」「板書の工夫」「発問、声掛けの工夫」「交流が活発になる条件の設定や手立て」の4グループを編制した。
- 10月の研究授業において、課題別グループで研究協議を行った。「交流が活発になる条件や手立て」のグループでは、少人数交流におけるグルーピングの工夫が話題となり、参加した教員は、グループ協議で話題になった授業改善の手立てを日常の授業で取り入れるようになった。
- 11月の研究授業においても、同じグループで研究協議を行い、10月に見いだした授業改善の手立てを基に取り組んだ授業実践について交流し、その効果を確認した。さらに、今後の取組を協議する時間を設け、新たな授業改善の手立てを見いだした。

・環境整備に関わる課題解決につながる取組

- ・毎月の職員会議後に、校外の研修に参加した教員による報告及び短時間の協議を行う校内研修の機会を設定し、研修成果の共有を図った。
- ・研究協議の際に、会話を楽しむ雰囲気醸成に努めたことで、職員室が温かい雰囲気になり、年齢層に関係なく、普段の授業談義が盛んになった。
- ・各教員が校外の研修会等に参加しやすいよう、校内体制を整備した。
- ・校外の研修に参加した教員に校内研修の講師となってもらい、共有するための場を設定した。

・組織的な取組に関わる課題解決に向けた取組

- ・全体の中で、各教員の授業における課題を整理し、全校で共通して取り組める改善点を話し合った。
- ・各教員が授業力向上プランを作成し、全体の中で交流して、日常の授業改善に取り組んだ。
- ・データや事例を使い、全体で変化の必要性について、校内研修における取組の方向性の共有を図った。
- ・指導案検討の際、全員で検討するようにしたことで、授業者への批判ではなく、授業改善の視点で自分事として話し合うことができた。

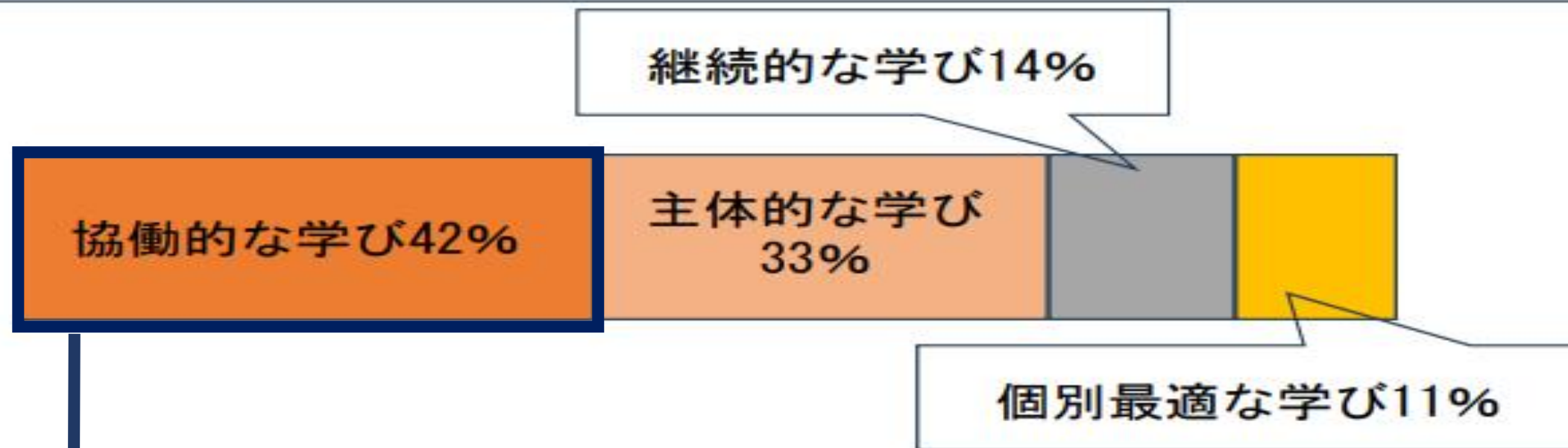
・研修の効果に関わる課題解決に向けた取組

- ・研究授業の成果と課題を踏まえて自身の授業改善に向けた取組について対話する場を設定した。
- ・日常の悩みなどをグループで交流する機会を設けることで、そこで得られた改善の手立てを自身の日常の授業に取り入れる姿が見られた。
- ・校内研修での学びが実践に生かされるよう、学期ごとに校内研究に関わる取組について全体で交流し、検証を行った。
- ・研究授業終了後の協議において、日常の授業改善の方策を明確にし、全体で共有を図った。

・教師一人一人のニーズへの対応の課題解決に関する取組

- ・各教員が、個人研修テーマを設定して研修を進めた後、課題別のグループに分かれて交流した。
- ・校内研修が自分事となるよう、各自が自己テーマとテーマ達成に向けて取り組みたいことを設定して、テーマ別のグループで交流しながら取り組んだ。
- ・教員一人一人が課題や実践上の悩み等を持ち寄り、交流・協議する場を設定した。
- ・教師一人一人の興味や関心、必要感に応じた研修テーマを設定し、希望参加型のミニ研修を実施した。

「主体的な姿勢」、「継続的な学び」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の4つの視点のうち課題となるものはどれか。



「協働的な学び」の充実につながる取組

協

確認

- ・ 環境整備に関わる課題解決につながる取組
- ・ 組織的な取組に関わる課題解決につながる取組
- ・ 研修の効果に関わる課題解決につながる取組
- ・ 教師一人一人のニーズへの対応に関わる課題解決につながる取組

「協働的な学び」の充実につながる取組

例えば、環境整備に関わる課題解決につながる取組の記述内容では

- ・毎月の職員会議後に、校外の研修に参加した教員による報告及び短時間の協議を行う校内研修の機会を設定し、研修成果の共有を図った。協
- ・研究協議の際に、会話を楽しむ雰囲気醸成に努めたことで、職員室が温かい雰囲気になり、年齢層に関係なく、普段の授業談義が盛んになった。協
- ・各教員が校外の研修会等に参加しやすいよう、校内体制を整備した。
- ・校外の研修に参加した教員に校内研修の講師となってもらい、共有するための場を設定した。協

「協働的な学び」の充実につながる取組

【協働的な学び】

- ・ 研究主題の達成に向け、目指す児童生徒や授業改善の方策について共有する取組
- ・ 全校で共通して取り組む授業改善の方策について協議する取組
- ・ 各教員のニーズに応じたグループを編成し、交流・協議を行う取組 など

→ 「学校全体での研修の目的や方向性の共有」に関する取組



新たな教師の学びの姿の実現に向け

「研修する目的意識を共有するための取組」が大切ではないか

(3) 各都府県センター視察（滋賀県総合教育センター）

「新たな教師の学びの姿」の実現に向かう校内研究

令和5年度校内研究活性化プロジェクト研究

「新たな教師の学びの姿」の実現に向かう校内研究

主体的な姿勢
個別最適な学び
協働的な学び
継続的な学び

校内研究の工夫が教師を変える

「新たな教師の学びの姿」を校内研究活性化の推進力に！
先生の学びにも「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を！

※研究の成果は教育委員会関係機関への発表あり

SPEC 滋賀県総合教育センター
Shiga Prefectural Education Center

「新たな教師の学びの姿」とは

新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した
「個別最適な学び」

他者との対話や振り返りの機会を確保した
「協働的な学び」

変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという
「主体的な姿勢」

求められる知識技能が変わっていくことを意識した
「継続的な学び」

文部科学省が策定推進する「2020年の日本型教育」を軸に、教師の能力・態度・知識・スキル等のさらなる向上について、「新たな教師の学びの姿」が実現し、多様な専門性を有する良質な教員集団の形成へ（国策）」と、令和4年（2022年）

研究委員が考えた「新たな教師の学びの姿」の実現に向かう校内研究のあり方

学校教育目標を起点に始める必要がある。

授業と同じで、「個別最適な学び」を、「主体的な姿勢」と「継続的な学び」に還元することで学びを深めることができた。

「主体的な姿勢」と「継続的な学び」は土台と捉えて下側に描いていきます。

校内研究で目指す児童生徒の姿の実現へ

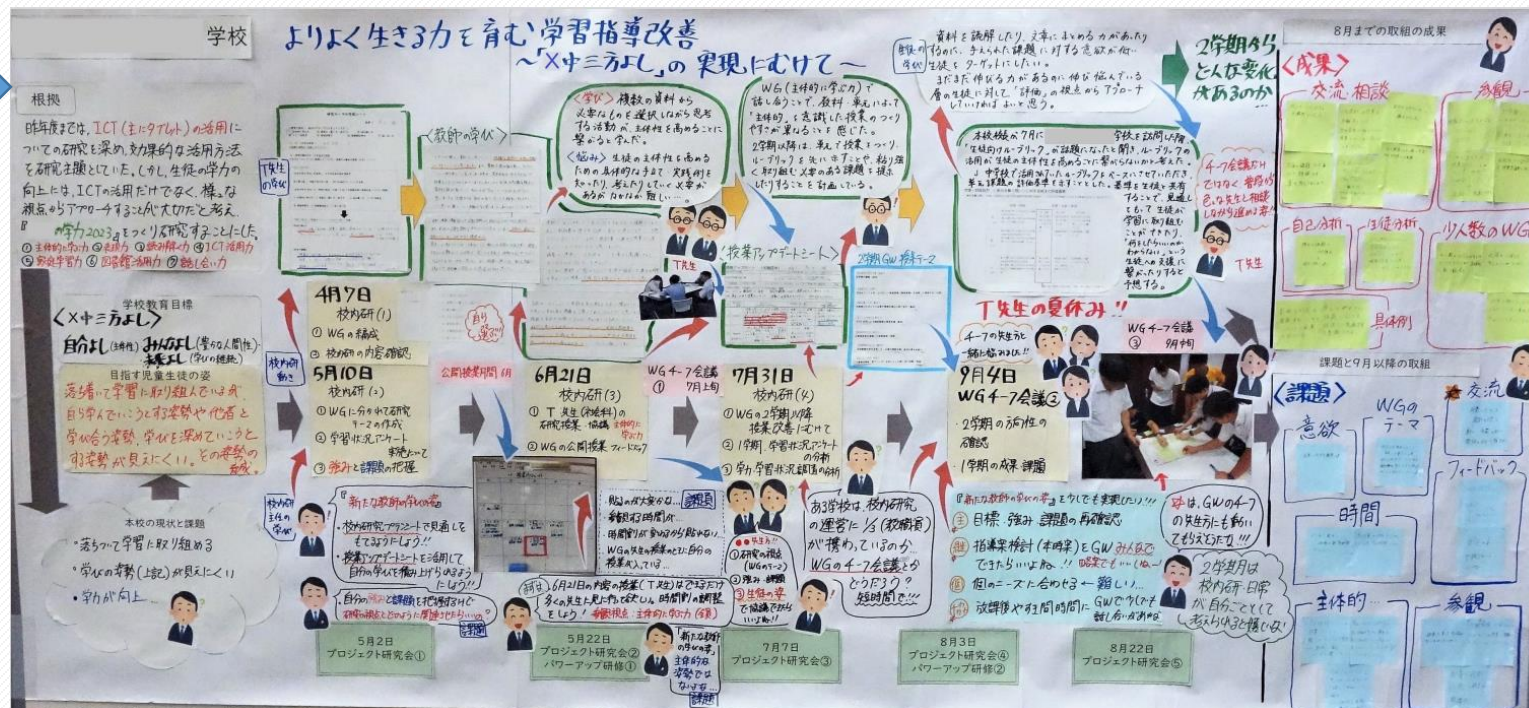
個別最適な学び 主体的な姿勢 協働的な学び 継続的な学び

学校教育目標



(3) 各都府県センター視察（滋賀県総合教育センター）

○ 教員の「協働的な学び」の充実に向けた取組 校内研究省察ポスター



校内研究の取組を省察ポスターで振り返り、成果と課題を共有

- 「新たな教師の学びの姿」を目指す校内研修の実現に向けて

校内研修において、「何をするのか（内容面）」はもとより、校内研修を通して、「どうなりたいのかという共通の目標」が必要ではないか。

「研修する目的意識の共有」

○ 次年度に向けて

地域研修サポート事業

教育研究所・教育（研修）センター及び教育関係機関・団体等の依頼に応じて、道立教育研究所の職員を派遣して講義等を行うことにより、地域で実施する研修をサポートする事業

主な変更点

1年間を通して行う校内研修に関するサポートも行う。



実施内容

学習指導、生徒指導、教科等専門教育等に関する研修講座について、講義、協議、演習、助言等のサポートを行う。

web会議システムを用いた遠隔型及び会場での集合型

実施方法



○ 次年度に向けて

道研研修講座
9

学校管理職研修9 ～研修観の転換によるこれからの校内研修～

教頭等

【講座のねらい】

講義や受講者同士の協議を通して、教師自身の研修観を転換するこれからの校内研修の在り方について理解を深め、自校における校内研修の改善の見通しをもつ。

【対象】 全ての校種の教頭・主幹教諭及び校内研修を担当する教諭

【定員】 84名

【研修日程・内容】

① 1.5h

8月中旬～9月中旬
オンデマンド型研修
「講義」



- 研修観の転換
 - ・ 「新たな教師の学びの姿」
 - ・ 理論と実践の往還
 - ・ 研修デザインの三角形
- 本道における現状と改善の方向性

9月上旬～
10月上旬
事前課題

- 校内研修に係る自校の現状と課題の把握

② 4.0h

10月9日
遠隔型研修
「講義・協議」



- 管理職としての資質能力
- 自校の現状と課題について
- 研修観の転換に基づく校内研修の在り方
- 自校の校内研修に係る改善の見通し

10月中旬～
12月中旬
職場実践
振り返り

- 自校における校内研修の改善に向けた取組
- 振り返り

令和7年3月14日（金）

「新たな教師の学びの姿」を目指す校内研修の実現



御清聴ありがとうございました。

北海道立教育研究所

人材育成部研究主幹 西 島 進 一